

# CEFR に基づいた日本語コースの現状と課題

## ースペインの公立語学学校 (EOI) におけるコースデザインー

篠崎摂子・野崎美香

### 1. はじめに

国際交流基金の2015年度日本語教育機関調査によると、スペインの日本語学習者の80%以上は初等・中等・高等教育段階以外の教育機関で学んでいる。その中には、一般成人が受講できる大学の語学センターや、アカデミアと呼ばれる民間の日本語学校とともに、スペイン独自の公教育機関である公立語学学校 (Escuela Oficial de Idiomas、以下 EOI) の学習者が相当数含まれる<sup>(1)</sup>。EOI は各自治州が設置する言語教育機関で、CEFR (Common European Framework of Reference for Languages) に基づく言語教育とレベル認定試験を実施しており、各言語の公的資格を得られるのが特色である。本稿では、ガリシア州の EOI ア・コルーニャ校におけるコースデザインを通して、スペインの公教育における CEFR に基づいた日本語コースの現状と課題を報告する。

### 2. 公立語学学校 (EOI) の日本語コース

スペインの教育制度では初・中・高等教育のような一般教育とは別に、言語、芸術、スポーツの特別教育が整備されており、EOI はその制度に基づく公的な教育機関 (Centros Docentes no Universitarios、非大学教育センター) である<sup>(2)</sup>。原型は1911年にマドリードに設置された中央語学学校 (Escuela Central de Idiomas) で、現在では全国に300校以上が設置されている。EOI では主なヨーロッパ言語や、自治州の公用語 (ガリシア語、バスク語等)、外国語としてのスペイン語、アラビア語、中国語、日本語の23言語が各校の選択で教えられているが、日本語が開講されているのは2019年4月現在12校だけである<sup>(3)</sup>。一般的には16歳から入学可能だが、日本語のように義務教育で教えられていない言語については14歳から受講できる<sup>(4)</sup>。

レベルは基礎、中級、上級に分けられ、中・高等教育の外国語教育と同等のレベルが保証されている。カリキュラムは国の方針に基づいて各自治州が定めており、学習期間は基礎が2~3年 (最低120時間/年、以下同じ)、中級が2~3年、上級が2年となっている。2007年に CEFR が導入されてからは、従来の基礎が A2、中級が B1、上級が B2 となり、その上のレベルとして C1、C2 が設定された。その後 CEFR に合わせて C1、C2 を上級、B2 を中級とする動きも出てきているが、日本語は現在のところ B2 までしか教えられていない。EOI が実施するレベル

認定試験に合格すれば公的資格が得られ、EOI でコースを受講していなくても受験が可能である。

日本語コースを設置する EOI は、表1および図1の通りである。このうちパンプローナ、トゥデラ、ムルシア、シウダド・レアルの4校は非公式のコースで、正式なレベル認定は行っていない。バルセロナやマドリードのような大都市でも日本語コースを設置しているのは各1校のみである。

表1 日本語コースを設置する公立語学学校 (EOI)

|    | 学校名  | 日本語コース<br>設置年 | 所在地      | 自治州                |
|----|--|---------------|----------|--------------------|
| 1  | Escola Oficial d'Idiomes de Barcelona-Drassanes          | 1971年         | バルセロナ    | カタルーニャ             |
| 2  | Escuela Oficial de Idiomas de Madrid-JESUS MAESTRO       | 1975年         | マドリード    | マドリード              |
| 3  | Escuela Oficial de Idiomas de Málaga                     | 1992年         | マラガ      | アンダルシア             |
| 4  | Escola Oficial de Idiomas da Coruña                      | 2007年         | ア・コルーニャ  | ガリシア               |
| 5  | Escola Oficial de Idioma de Vigo                         | 2007年         | ビゴ       | バレンシア              |
| 6  | Escola Oficial d'Idiomes València-Saïdia                 | 2016年         | バレンシア    |                    |
| 7  | Escola Oficial d'Idiomes Alacant                         | 2018年         | アリカンテ    |                    |
| 8  | Escola Oficial d'Idiomes d'Eix                           | 2018年         | エルチェ     |                    |
| 9  | Escuela Oficial de Idiomas de Pamplona-Iruña*            | 2000年         | パンプローナ   | ナバーラ               |
| 10 | Escuela Oficial de Idiomas de Tudela*                    | 2008年         | トゥデラ     |                    |
| 11 | Escuela Oficial de Idiomas de Murcia*                    | 2018年         | ムルシア     | ムルシア               |
| 12 | Escuela Oficial de idiomas Prado de Alarcos Ciudad-Real* | 2018年         | シウダド・レアル | カスティーリャ<br>=ラ・マンチャ |

\*非公式コース



図1 日本語コースを設置する公立語学学校 (EOI) の所在地

## CEFR に基づいた日本語コースの現状と課題

バルセロナとマドリードの EOI はスペインで最も早い時期に日本語教育を始めており、上級レベルまで学習できる機関として長く貴重な存在だった<sup>5)</sup>。その後アンダルシア州のマラガ、ガリシア州のア・コルーニャ、ピゴでも日本語が始まり、基本的に B2 までのコースを開講している。2015 年度機関調査後にバレンシア州の 3 つの EOI で公式の日本語コースが始まり、非公式のコースも含めて EOI での学習者は増加している。

次章では、EOI における CEFR に基づいた日本語コースの現状として、ガリシア州 EOI ア・コルーニャ校のコースデザインについて報告する。

### 3. ガリシア州公立語学学校 (EOI) ア・コルーニャ校におけるコースデザイン

EOI の言語教育は、国が定めたカリキュラムを基に、各自治州が独自のカリキュラムを作成して実施している。これらのカリキュラムは全言語共通のものであり、レベル認定試験も各州のカリキュラムに基づき、全言語共通の形式で行われる。

ガリシア州には EOI が全部で 12 校あり、2007 年 10 月にア・コルーニャ校とピゴ校に日本語学科が設置された。両校ではガリシア州のカリキュラムに基づいた日本語教育を実施しているが、コースデザインはそれぞれ別に行っている。

本章では、まずガリシア州の EOI カリキュラムの概要を紹介したのちに、ア・コルーニャ校のコースデザインについて述べる。

#### 3.1 EOI カリキュラム

国の EOI カリキュラムでは 2006 年に CEFR が導入され、2017 年に改定されている。それを受けてガリシア州でも 2007 年に CEFR が導入され、2018 年に改定された。ここでは、ガリシア州教育省の 2018 年版カリキュラム (Guía curricular de Escuela Oficial de Idiomas de Galicia、以下 EOI カリキュラム) の概要を述べる。

##### 3.1.1 EOI カリキュラムの構成と内容

EOI カリキュラムはガリシア州報 2018 年 8 月 13 日付 154 号の付録 I として公開されているが、州報の本文には EOI で実施する言語教育の種類やレベル設定、学習時間等が記載されている。ガリシア州で開講している全 11 言語のレベル別学習時間は表 2 の通りである。日本語はアラビア語、中国語と同様に習得に時間がかかる言語と考えられている。

表2 ガリシア州のEOIで開講している言語とレベル別学習時間

| 言語／レベル             | A1・A2     | B1      | B2  | C1  | C2  |
|--------------------|-----------|---------|-----|-----|-----|
| 英語・フランス語・イタリア語     | 120(240)* | 120     | 240 | 240 | 120 |
| ドイツ語               | 240       | 240     | 120 | 240 | 120 |
| ポルトガル語             | 120(60)   | 120     | 240 | 240 | 120 |
| ロシア語               | 240(360)  | 240     | 240 |     |     |
| アラビア語・中国語・日本語      | 240(360)  | 360     | 240 |     |     |
| 外国語としてのスペイン語・ガリシア語 | 120(60)   | 120(60) | 120 | 120 | 120 |

\*120時間は1年間の学習時間数に当たる。状況によっては( )内の時間数での設定も可能。

EOIカリキュラムでは、最初にCEFRの複言語複文化主義の理念に基づく言語教育についての説明があり、EOIの教育現場は、「言語習得のみを目的とする場」ではなく、言語習得を通して「コミュニケーションそのものを学ぶ場」であることが明記されている。そして、A1～C2までの各レベルについて、まずレベルイメージを述べた後に、5つの技能ごとに学習目標、言語能力と学習内容、評価基準が述べられている。表3はレベル別に記述されている項目の構成をまとめたものである。

表3 EOIカリキュラムの構成

| レベル   |
|---|
| レベルイメージ   |
| 1. 音声テキストの理解 (聞く)                                       |
| 1. 学習目標   |
| 2. 言語能力と学習内容  |
| (1)社会文化・社会言語 (2)ストラテジー (3)機能 (4)談話 (5)構文 (6)語彙 (7)音素・音韻 |
| 3. 評価基準   |
| 2. 音声テキストの産出とやりとり (話す) ※下位項目の構成は1と同じ                    |
| 3. 文字テキストの理解 (読む) ※同上、ただし(7)は「正書法」になる                   |
| 4. 文字テキストの産出とやりとり (書く) ※同上、ただし(7)は「正書法」になる              |
| 5. 仲介   |
| 5. 1学習目標  |
| 5. 2異文化間能力と学習内容 ※下位項目はない                                |
| 5. 3評価基準  |

各項目を簡単に説明すると、「レベルイメージ」にはCEFRの「共通参照レベル：全体的尺度」を基にした各レベルの説明が書かれている。「学習目標」にはそのレベル、技能で身につけるべきコミュニケーション活動が列挙されているがCan-doにはなっていない。「言語能力と学習内容」は7つの項目について、そのレベルで身につけるべき能力と内容が述べられている。「評価基準」は、そのレベルで技能または項目別に何を評価すべきかが簡単に述べられている。

EOIカリキュラムでは、異文化間能力、社会文化的知識などの言語能力以外の要因も重視

されている。それは単なる言葉の学習という側面だけではなく、その言語が使用される地域、国にある社会的、文化的コンテクストをも理解できるような言語使用者を育てるという CEFR の複言語複文化主義の教育理念（Council of Europe 2018：157-158）が反映されていると言える。具体的な例として、表3の B1レベルの(1) 社会文化・社会言語では、「日常生活」「私生活における人間関係」「職場における人間関係」「ボディランゲージ」「社会的規範」の5つの領域が提示されている。また、(6) 語彙では、語彙が使用される言語活動の具体的な場面や内容（トピック）が提示されている。レベルによってトピックは異なり、B1レベルでは、「芸術活動」「経済活動・商業活動」「食」「科学・テクノロジー」「天気・環境」「教育」「アイデンティティ」「情報・マスメディア」「政治・社会」「人間関係・社会」「健康・健康管理」「余暇・最近の話題」「仕事・職業」「旅行と交通」「住居・周辺」の15に類別され、さらに各トピックには下位概念が列挙されている。

なお、EOI カリキュラムではレベルごとの語彙リストや文法リストが提示されていないため、学習言語が使用される社会文化的背景に基づき、レベルを考慮しながら、各コミュニケーション活動を達成するために必要な言語知識を分析、実践することが現場に求められている。

### 3.1.2 EOI カリキュラムに基づくコースデザイン

EOI カリキュラムは CEFR を基に EOI の教育現場の「あるべき姿」を映し出した文書である。何を目指し（目標）、目標を達成するために何を身につけるべきか（学習内容）、何をもちいて目標が達成できたかを知るか（評価基準）を示している。EOI ではそれを実現する教育が求められており、そのためのコースデザインが必要になる。

国際交流基金（2006）には、コースをデザインする上で、学習者のニーズ調査・レディネス分析を基に、コース内容を決定していくことの重要性が書かれている。しかし EOI の場合は、コース目標は EOI カリキュラムによって明確に定められており、ここでのコースデザインは「EOI カリキュラムをコースとして具体化していく作業」を意味する。

以上を踏まえ、次節では EOI ア・コルーニャ校のコースデザインについて述べる。

## 3.2 EOI ア・コルーニャ校におけるコースデザイン

ここでは EOI の教師が EOI カリキュラムの内容を踏まえ、どのようにコースデザイン、シラバスデザインを行っているのかを、筆者が担当する「B1.2」のコースを例に取り上げ説明する<sup>6)</sup>。EOI ア・コルーニャ校では、前述の EOI カリキュラム(6) 語彙のトピックを基にシラバスを作成している。このトピックは表3の1～4の各技能で内容的にほぼ一致するものである。筆者はシラバスの作成にあたり次のステップを踏んでいる。

### 3.2.1 コミュニケーション活動の考案

「B1.2」のコースでは、B1の(6)語彙のトピックの中から「人間関係・社会」「仕事・職業」「情報・マスメディア」「余暇・最近の話題」を取り上げている。そこでまず、各トピックに適したコミュニケーション活動案を考える作業から行う。表3の内容からもわかる通り、EOIでは、「聞く」「話す」「読む」「書く」「仲介」の5技能を習得する。そのため、1つのトピックについてこの5技能をカバーするコミュニケーション活動案を考えることになる。この際に留意すべき点が二つある。

一つは談話タイプの選択である。EOIカリキュラムの(4)談話では、授業で取り扱うべき「話しことばの談話」「書きことばの談話」のタイプが示されている。表4はB1の談話タイプを表しているが、コミュニケーション活動にこれらを幅広く取り入れる必要がある。

表4 B1コースで取り扱う談話タイプ

| 「話しことばの談話」のタイプ   | 「書きことばの談話」のタイプ   |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ラジオ、テレビコマーシャル</li> <li>・ 指示やアナウンス</li> <li>・ ディスカッション</li> <li>・ アンケート結果の説明</li> <li>・ プレゼンテーション</li> <li>・ 面接でのやりとり</li> <li>・ フォーマル、インフォーマルの場面でのやりとり</li> <li>・ 医者と患者や店員と客などの公共の場でのやりとり</li> <li>・ 会話全般</li> <li>・ 視聴覚(映画、テレビ番組、ドキュメンタリー)</li> <li>・ 歌、詩</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広告</li> <li>・ ダイレクトメール、クレーム文書</li> <li>・ 個人的な手紙、メール、伝言メモ</li> <li>・ 新聞、雑誌などの記事</li> <li>・ 新聞などに寄せられた「読者の声」</li> <li>・ 役所などからのお知らせ</li> <li>・ 申請書類</li> <li>・ 指示や説明書</li> <li>・ まんが、小説、詩、劇のシナリオ</li> <li>・ 占い</li> <li>・ レシピ</li> <li>・ 履歴書</li> <li>・ バイオグラフィー</li> </ul> |

もう一つは、EOIカリキュラムには技能別に目標と評価基準が提示されているため、コミュニケーション活動案がそれに合致しているかを確認する必要がある。そして、各活動案の目標をCan-doとして明確にする。

この二点を念頭に置いてコミュニケーション活動案を構築していく。表5はトピック「人間関係と社会」について筆者が考えた活動案の例である。

表5 「人間関係と社会」のコミュニケーション活動

| 技能                      | 教室活動  |
|-------------------------|---|
| 音声テキストの理解<br>(聞く)       | ① ラジオ番組「悩み相談」を聞いて、その悩みの内容を理解する<br>② 日本人の結婚に関するアンケート結果を聞いて、日本人の結婚観を知る                      |
| 音声テキストの産出と<br>やりとり (話す) | ③ ある有名人のバイオグラフィーについてプレゼンテーションする<br>④ ルームメイトを探すためにクラスメイトと話し合う<br>⑤ 日本の「お見合い」についてディスカッションする |
| 文字テキストの理解<br>(読む)       | ⑥ 血液型占いを読んで、タイプ別の性格を知る<br>⑦ 様々な場面でのお祝いメッセージを読んで、その内容を理解する                                 |
| 文字テキストの産出と<br>やりとり (書く) | ⑧ 大家さんに隣人とのトラブルについての苦情メールを書く<br>⑨ 人間関係で最近遭遇した出来事で嬉しかったことをブログに書く                           |
| 仲介                      | ⑩ クラスメイトと一緒に習い事を始めるために、それぞれが習い事の案内を読み、相手にその内容を自分の言葉で説明する                                  |

これらの活動案は、作成した後でEOIカリキュラムを参照しながら見直しを行い、技能を変更したり、不足していたものを追加したりすることもある。例えば、表5の①は当初、「悩み相談サイトに寄せられた悩み事を読む」という「文字テキストの理解」を行う活動であった。しかしB1の「音声テキストの理解」の目標の一つに「身近なテーマを扱ったラジオ番組を聞いて、その内容をおおよそ理解する」がある。また、日本には自分の悩みを電話で相談するラジオ番組が多々あり、その内容も身近な問題を扱ったものが多いことから、当初考えていた「悩み事を読む」を「ラジオ番組の悩み相談を聞く」に変更した。また、評価基準の一つに、「事前に準備をしたなら、身近な話題についての短いプレゼンテーションを行い、簡単な質疑応答に対応する」がある。これを踏まえ、表5の③の活動案を追加した。このようにして、一つのトピックについて活動案をまとめていく。

### 3.2.2 言語能力項目の選定

各トピックのコミュニケーション活動案が完成すると、その活動を行うために必要な言語能力、表3の(1)～(7)の項目について考えていく。例えば表5の⑥の活動を行う前に、学習者は血液型占いについての日本の文化知識が当然必要となる。スペイン社会では成人であっても自分の血液型を知らない人が少なくない。血液型に全く関心を抱いていない学習者たちが日本の占い文化を知らずにこの活動を行っても、十分に理解できないであろう。そこで社会文化知識として日本の占い文化、その中でも血液型占いが多くの世代に関心を寄せられていることを学習者は知る必要がある。また、占いでは、人の性格や相性について取り上げているものが多い。そこでそれを理解するためには、それらの語彙の習得も不可欠となる。このようにして、それぞれのコミュニケーション活動の達成にどんな言語能力が必要かを考えていく。このようなステップを踏み、各ユニットのシラバスを作成する。

表6 トピック「人間関係と社会」のシラバスの例 (一部)

|                         |               |   |
|-------------------------|---------------|---|
| コミュニケーション活動の目標 (Can-do) |               | ①悩みを聞き、悩みの内容、事例や状況が理解できる                      |
| コミュニケーション活動             |               | ・ラジオ番組の「悩み相談」を聞く                              |
| 言語能力と学習内容               | (1) 社会文化・社会言語 | ・ラジオ番組の「悩み相談」について知る                           |
|                         | (2) ストラテジー    | ・単語の意味推測                                      |
|                         | (3) 機能        | ・相手に助言を求める                                    |
|                         | (4) 談話        | ・ラジオ番組 (音声)                                   |
|                         | (5) 構文        | ・「どうしたら、いいと思いますか」<br>・「〇〇たら／〇〇したほうが、いいと思いますか」 |
|                         | (6) 語彙        | ・悩み相談で使われる語彙                                  |
|                         | (7) 音素・音韻     | ・悩み相談の音声を用いてシャドーイング                           |

### 3.2.3 時間調整

最後に全体の時間配分を考えて内容を調整する。EOIの1コースはおよそ120時間で、「B1.2」の場合は一つのトピックにかけられる時間は30時間 (120分×15回) である。ここではこの時間内にシラバスに提示した全ての活動案が実行できるのかを検討していく。全ての内容を取り扱うのが時間的に困難だと考えられる場合には、コミュニケーション活動案に優先順位をつけ、順位の高い活動とその活動に必要な言語知識の学習内容を選択し、各トピックのシラバス最終版を作成することになる。

### 3.2.4 教材作成

シラバス完成後、各トピックの内容をどのように授業へと発展させていくかをデザインしていく。そして教材の作成に取り掛かることになる。EOIがスペイン国内での外国語教育に根差していること、EOIの日本語学習者の年齢層は幅広く一つのクラスに10代から定年退職者までいることを考慮し、多くの学習者が「自分にも起こり得る」と感じられるようなコミュニケーション活動の場面や状況を設定することを筆者は意識している。それを満たすような市販教材はほとんどないため、教材は自主制作することが多い。

### 3.3 成果と課題

EOIア・コルーニャ校で筆者が担当した「B1.2」のコースデザインの成果と課題を以下に述べる。

筆者はできるだけ多くの学習者の関心、好奇心を刺激するような活動や教材を作成することを心掛けている。例えば、表5の①「ラジオ番組の悩み相談を聞く」の活動では、「相談者はスペイン語を習っているがなかなか上手に話せない。その理由としてスペイン語の動詞が人称によって変化するため、それを考えていると言葉が続かず会話にならない」という状況を設定し、

音声教材を作成した。実際の授業では、学習者自身が外国語学習者であることから相談者の悩みに共感できる部分があり、積極的に活動に参加していた。聴解後に行った「相談者にアドバイスをする」といった活動においても学習者が色々な解決策を日本語で説明することができた。また、学習者が日本語を学習する上での悩みを話す活動においても実生活で抱えている日本語学習の悩みを日本語で説明できたことに、学習者は満足している様子であった。このようにスペインでの日本語教育の場に適した活動を考え、実施していくことは、学習者の動機づけを高めることになり、学習者が積極的にコミュニケーション活動に参加していくことに結び付いていると言えるのではないだろうか。以上の点から現状のコースデザインには一定の成果があったと考えている。

一方、今後の課題として「漢字を書く」という活動をどのようにシラバスに取り入れて行くかがある。現状では、各コミュニケーション活動を達成するために必要な漢字語彙、文章を読むために必要なストラテジーとして漢字を導入している。例えば、表5の⑥の活動では人の性格を表す語彙を学習する。そこでまず接頭語「無」の意味、用法の理解を促した後で、「無口な人」「無関心な人」「無計画な人」などの性格を推測していくことを行っている。また、語彙量を増やす活動としては、既習の和語の語彙と関連付けて漢語語彙を学び、その派生語へと発展させることを行っている。このような活動を継続的に行うことで、「漢字を読む」技能においては漢字学習の成果が得られたと言える。しかし授業の中で、「漢字を手書きする」という活動をほとんど行っておらず、学習者の教室外での自立学習に任せているのが現状である。こうした状況が学習者の「漢字を書く」という意欲を希薄にしているのか、「メールや手紙を書く」授業活動において、学習者が積極的に漢字を用いていないことが判明した。例えば「アルバイト募集の案内を見て担当者にメールを書く」活動において、既習の「担当者さま」を「たんとうしゃさま」と平仮名で表記している学習者が数人いた。この場合、平仮名表記と漢字表記では読み手の印象は明確に変わってくる。EOI カリキュラムは全言語に共通するもので、文字テキストの産出、やりとりの評価基準に漢字表記に関する基準は明記されていない。しかし、EOI が「言語習得を通してコミュニケーションを学ぶ場である」ことを理念としている以上、読み手にマイナスの印象を与えるような表記は避けなければならない。以上を踏まえ、今後、EOI カリキュラムの「文字テキストの産出、やりとり」の評価基準を再確認し、それを日本語に適合させた際の漢字表記の評価基準について検討する必要があるだろう。それと共に、授業での「漢字を書く」という活動についても再検討することを今後の課題としたい。

#### 4. まとめ

前章ではガリシア州 EOI ア・コルーニャ校におけるコースデザインについて報告したが、最後に EOI の日本語コース全体の今後の課題を本稿のまとめとして述べたい。

まず、異なる自治州のEOI間での学習内容の均質化と学習の継続性の保証を図る必要がある。各自治州のEOIカリキュラムは国のカリキュラムに基づき、CEFR準拠の大枠は一致しているが、EOIア・コルーニャ校のコースデザインのように、具体的な学習内容や教授活動は教師の判断に任される部分が多い。そのため、学習者が進学や就職等の理由で他の自治州のEOIに転校した場合、同じレベルでも学習内容に差が生じる等の問題がある。

次に、各自治州のレベル認定試験の難易度やレベルの妥当性についての検証が必要である。レベル認定試験は公的な資格につながるものであり、本来は自治州間で難易度に差があったり、CEFRのレベルに適合していなかったりしてはならない。

これらの課題の解決のためには、各自治州のEOIの日本語教師同士が積極的に情報交換を行い、CEFR準拠の日本語教育やEOIカリキュラムについての共通認識を持ち、EOIカリキュラムに即したコースデザインと教授方法を学ぶ必要がある。そして、レベル認定試験についても協力して対処していくことが望ましい<sup>(7)</sup>。

国際交流基金マドリッド日本文化センターでは2019年2月にEOIネットワーク会議を開催し、8校のEOIの教師が参加した<sup>(8)</sup>。そこでは各EOIの現状と課題を共有したうえで、今後のEOI間の協働の可能性が話し合われた。それを踏まえて6月にはEOIの教師のみを対象とした研修会を実施し、教材や試験問題の作成についての具体的な情報交換を行っている。今後もスペインの日本語教育におけるEOIの重要性を認識し、ネットワーク形成に向けた適切な支援が求められる。

#### [注]

- <sup>(1)</sup>2015年機関調査ではスペインの日本語学習者は約5100人、そのうち初・中・高等教育段階以外の学習者が約4200人でEOI(7校)の学習者は約1200人であった。
- <sup>(2)</sup>EOIについてはスペイン教育・職業訓練省Webサイトの言語教育(Enseñanzas de idiomas)のページを参照した。
- <sup>(3)</sup>国際交流基金マドリッド日本文化センターが2018年機関調査で把握した機関数。同調査の結果は2019年3月までに公開される予定である。
- <sup>(4)</sup>2015年機関調査ではスペインの中等教育機関で日本語を教えている例はない。そのため、中高生は一般人向けの機関や個人教授で日本語を学習しており、EOIは貴重な受け皿になっている。
- <sup>(5)</sup>ロドリゲス デル アリサル(1995)、プラナス(2001)による。
- <sup>(6)</sup>この節と次節は、EOIア・コルーニャ校で実際に教育を担当している野崎の経験を基に述べる。「B1.2」はB1を3年間(360時間)で教える際の2年目のコース名であり、CEFRでレベルを示すB1.2とは異なる。
- <sup>(7)</sup>レベル認定試験は他言語と共通の形式・内容となっており、他言語では自治州間で協力して試験問題の試行等を行う例もある。日本語のレベル認定試験については野崎(2010, 2017)を参照されたい。
- <sup>(8)</sup>EOIネットワーク会議は2015、2016、2017年にも開催している(2017年は大学語学センターとの合同開催)。

## CEFR に基づいた日本語コースの現状と課題

### 〔参考文献〕

- 国際交流基金 (2006) 『日本語教師の役割／コースデザイン』 ひつじ書房
- 国際交流基金 「2015年度海外日本語教育機関調査」  
<<https://www.jpfi.go.jp/j/project/japanese/survey/result/survey15.html>> (2019年8月20日)
- 野崎美香 (2010) 「CEFR に基づく初級修了試験 (Prueba de certificación Nivel Básico) の実践報告」『第1回スペイン日本語教師会シンポジウム論文集』、18-22
- 野崎美香 (2017) 「目標達成のためのライティング指導—授業と評価の一体化—」『第4回スペイン日本語教師会シンポジウム発表論文集』、45-50
- プラナス, R (2001) 「スペインにおける日本語教育」国際交流基金『世界の日本語教育 日本語教育事情報告編』6、59-71
- ロドリゲス デル アリサル, M (1995) 「スペインにおける日本語教育」国際交流基金『世界の日本語教育 日本語教育事情報告編』2、85-92
- Council of Europe (2004) 『外国語の学習、教授、計画のためのヨーロッパ共通参照枠』初版第1刷吉島茂・大橋理枝 (訳、編)、朝日出版社
- Consellería de Educación, Universidade e Formación profesional (ガリシア州教育省) *Guía curricular de Escuela Oficial de Idiomas de Galicia, DOG Núm. 154 Lunes, 13 de agosto de 2018* (ガリシア州報2018年8月13日付154号)  
<[https://www.xunta.gal/dog/Publicados/2018/20180813/AnuncioG0164-020818-0001\\_es.html](https://www.xunta.gal/dog/Publicados/2018/20180813/AnuncioG0164-020818-0001_es.html)> (2019年8月20日)
- Council of Europe (2018) *Common European Framework of Reference for Languages : Learning, teaching, assessment companion volume with new descriptors*  
<<https://www.coe.int/en/web/common-european-framework-reference-languages>> (2019年11月20日)
- Ministerio de Educación y Formación Profesional-Gobierno de España (スペイン教育・職業訓練省) *Enseñanzas de idiomas* <<http://www.educacionyfp.gob.es/contenidos/estudiantes/ensenanza-idiomas.html>> (2019年8月20日)

